

里山とは

人類は社会集団を営み始めた頃から、山を拓き焼き田畑を起し、食料を蓄え始めた。

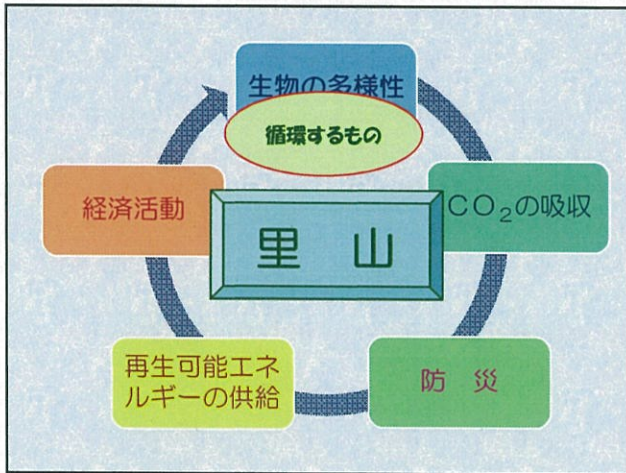
その頃より、人は山の本々を伐り、伐った土地を焼き、土をアワ、ソバ等を播き、食料や燃料、肥料等を“山”に求め始めた。

人々は、30年～40年の周期で土地を移動して焼き畑を行って刈り払われ放置された焼き畑は確実に“萌芽更新”を行い新しい森林へと循環していった。

かつて人類は、森林に食料の種をまいてきた。

この森林が“里山”である。

人類の社会生活と共に里山は、その生活を支えてきた。



里山再生企画案vol.1

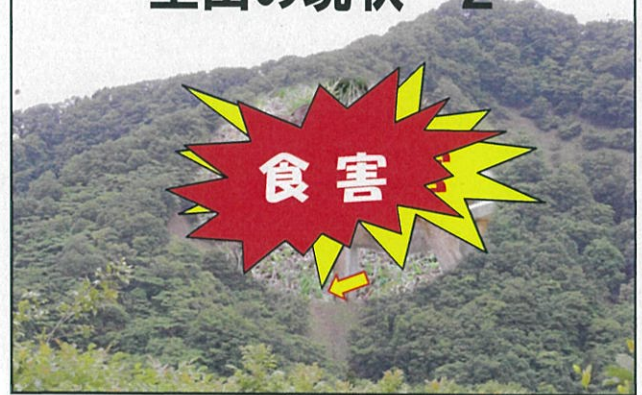
～ 次世代へ引き継ぐ環境学習プログラム ～

- 1 里山の現状
- 2 理想的な里山
- 3 山おやじ育成プログラム
 - (1) 今、なぜ山おやじを育てるのか。
 - (2) 『間伐・焚火実習』と『里山再生』
 - (3) “山おやじ育成プログラム”概要
 - (4) 1年目“山おやじ育成プログラム”の展開
 - (5) 危機管理対策
 - (6) 里山整備用具
 - (7) 里山整備計画(費用捻出について)

里山の現状－1



里山の現状－2

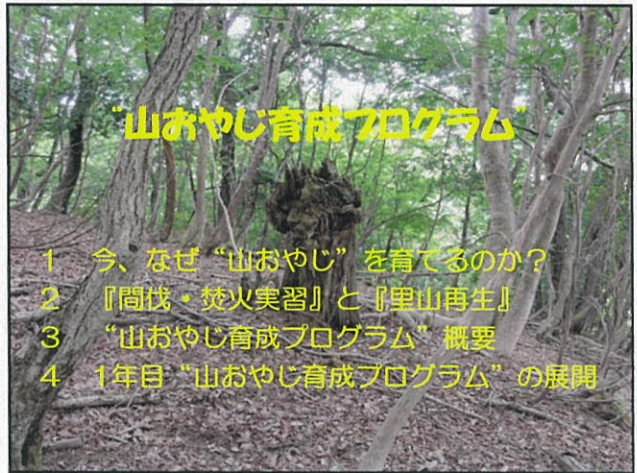


里山ガーデンの様子



里山ガーデンの様子－2





- 1 今、なぜ“山おやし”を育てるのか？
- 2 『間伐・焚火実習』と『里山再生』
- 3 “山おやし育成プログラム”概要
- 4 1年目“山おやし育成プログラム”の展開

1 今、なぜ“山おやし”を育てるのか？

「イベント～」

国内、あちこちで開かれる『イベント』
自然関係の『イベント』の参加者の多くは **“子ども”**
それと **“子ども”**

しかし！

小学校中・高学年 **“子ども”** だったのでしょうか？
それと・・・

参加者に、男性！成人の男性の参加も 少ないですね。

**キャンプだ ホイ キャンプだ ホイ
キャンプだ ホイホイホイ！**

川原や海辺で バーベキューで 張り切っているのは
“男性！”

火熾し 火守り 肥後の守

本来、男というものは
“原始からの本能”を秘めているもの？

私たちのプロジェクトは、こんな “男性”や
近頃、狩猟に目覚めた “狩ガール”や“森女”を主な対象に・・・

“里山再生”を展開する！

2 『間伐・焚火実習』と『里山再生』

“山おやし”育成プログラムー1
「かっこいい！ おやし(おかん)づくり」

『かっこいい！ 大人』とは (定義)

そんな“縄文男と女”

1 「アッコイ」
2 「アッコイ」
3 「アッコイ」
4 片手に持ったペティで 魚 ローストインでも
「アッコイ」の間に さびいてしまう！

山おやし育成プログラムー1
(プロジェクト1年目の取組)

プログラム No.1 [間伐・薪割り・焚火実習]
時間: (1日)8時30分～15時 対象: 成人20人

(1) チェーンソーによる間伐実習

- ① 里山について(講師: 熊谷先生)
- ② 里山において「なぜ？」間伐が必要なのか。
- ③ チェーンソーとチルホールによる間伐実習

(2) 薪割りと焚火づくり実習

- ① 斧による『薪割り』
- ② 焚火の熾し方実習

(3) ワークショップ

途中で **おむふ** の
昼食タイム！

山おやじ育成プログラムー1

プログラム No.2 [木エクラフト]

時間(1日) 9時~12時 対象:Family 20人

(3)木エクラフト

「間伐材や枝を使って“ストラップ”づくり」

①『里山の恵み』お話

②ナイフや鋸等の使い方

③ストラップづくり

※プロジェクト参加者がリーダー

「かっこういい おとな」の見せ場!

④ワークショップ



山おやじ育成プログラムー1

プログラム NO.3 [焚火で遊ぼう]

時間(1日): 9:00~13:00 対象:Family 20人

(4)『焚火で遊ぼう』

「焚火を熾して、焼き芋や棒焼きパンづくり」

①プロジェクト参加者が子どもたちの前で

かっこうよく“焚火熾し”をする。

②熾きた焚火で、『棒焼きパン』つくる。

③子どもたちが火熾し体験をする。

④里山と“火”について学ぶ。

⑤ワークショップ

山おやじ育成プログラムー1

プログラム No.4 [冬の里山トレッキング]

時間(1日): 9時~13時 対象:Family 20人

(5)『冬の散策路』

～ 冬の散策路を歩き、

冬の生き物たちのくらしを観察しよう ～

①里山ガーデンの散策路をトレッキングする。

②冬芽観察やアニマル・トラッキングをする。

③フィールドビンゴを楽しむ。

④“縄文おとな”がつくった『山賊鍋』を楽しむ。

⑤ワークショップ

里山ガーデン散策路整備ー1 ～ 間伐実習内容 ～

[整備概要]

1 里山ガーデンの散策路整備の必要性

2 整備方法

(1)下草刈り

(2)間伐

(3)間伐材の利活用

(4)刈り取った下草の利活用(着火剤:コシダ)

3 間伐チーム編成について

(1)経験者を中心とした班編成

(2)下草刈り班と間伐班構成

里山ガーデン散策路整備ー1

[整備箇所と整備方法]

1 下草刈り

○主にコシダが全体に繁茂しているので、見通しが悪い場所や繁茂状態が著しい場所は、大きく攪乱を行う。(刈り払い機・鎌)

○尾根筋は、笹が茂っている場所が多いので大きく刈り取る。(刈り払い機・鎌)

2 間伐作業

○主に尾根筋と散策路周辺で見晴らしや散策路の見通しの悪い場所の“もやかき”を中心に伐採する。(鉋・鋸 対象のよってチェーンソー)

○コナラ等の落葉性広葉樹の妨げになるような低灌木を伐採する。

※現場にて2~3mの玉切りにして出す。(鉋・チェーンソー)

※里山ガーデンにて皮剥ぎ(試しのみ)(チェーンソー・鋸・ピーラー)

3 運び出し

○斜面の傾斜を利用して滑り落とす。

○ワッカロープで2~4人で運び出す。

○小枝は1人でワッカロープで運ぶ。

※ワッカロープは
径12~16mmの
クレモナもしくはテロ
ンを使用

里山ガーデン散策路整備ー1 ～ 薪割り・焚火 ～

1 薪割り実習

(1)運び出した間伐材を里山ガーデンで、さらに小さく(50cm~100cm位)玉切りする。(チェーンソー)

(2)事前に伐り出しておいた間伐材で『薪割り』実習を行う。(斧)

(3)安全対策を確実に行う。

※摩擦式火熾しは
“弓切り・握握み式で
行う。

2 焚火づくり

(1)割り終えた薪を使い、焚火実習を行う。

①薪の組み方(それぞれ班に、合掌型・井桁型・並列型を体験する。)

②火の熾し方(火打ち式着火法、摩擦式着火法、近代的着火法等)
(子ども達に体験させるために、確実に着火できるように練習する。)

③火が熾きたら、それぞれの焚火で『棒焼きパン』を焼き試食する。

④スタッフが作った焚火(トライポッド+合掌型・開き傘)で山賊鍋を
賞味する。

危機管理対策

〔安全管理の基本的対応〕

- ①作業開始前に『リスクアセスメント』を実施し、『声だし確認』、『作業時の安全確認』を徹底する。道具の点検、服装・装備の点検を行う。
- ②作業エリアを決めて、危険エリア(他の班の作業範囲)が重ならないに確認する。
- ③必ずリーダーが周囲の確認と道具の使用者の周辺などに目配り・気配りを行い、繰り返し声だし安全確認を行い作業にかかること。
- ④緊急時の対応を下記にしたがい行う。

〔重症の場合〕

- ア-1 即刻作業を停止し、傷病の程度を確認する。心肺蘇生が必要な場合は、移動が可能な場合は平坦な所へ移動させ、1名がAEDを持ってくる。移動が不可の場合は、できるだけ平坦な斜面に寝かせ心肺蘇生を行う。
- イ 状態を確認して移動が可能であれば、里山ガーデンに移動させる。その際に、周辺の雑木等を利用して担架を作り全員で移動させる。
- ウ 場所にもよるが移動が困難な場合は、救急隊の到着を待ちその間、応急処置を継続する。
- エ-1 救急車が到着するまで、交替で心肺蘇生を行う。
- エ-2 救急車が到着するまで止血、貧血、体温の低下を防ぐなどの処置を行う。

〔軽症の場合〕

- ア 即刻、作業を停止し、全員でかかって里山ガーデンに移動させる。
- イ 傷病の程度を確認して対応を行う。
- ウ 緊急搬送が必要な場合は、救急車の要請を行う。
- エ 救急車が到着までに傷病の程度に応じた処置を行う。

※ いずれのケースにおいても、必ず1名救急車に同乗し、他1ないし2名が別の車で付き添い、その後の対応を行う。

〔その後の対応〕

- ア 事故が発生し救急搬送の必要が生じた場合には、すぐに里山研究所に一報を入れる。一報を入れた後、救急搬送先から状況を逐次連絡する。必要に応じて指示に従う。
- イ 傷病者の家族に連絡を入れるが、重症の場合は家族が動揺しないように的確に状況を説明し、落ち着いて行動するように要請する。この際に、必要な物がある程度指示して、入院・手術等に対応できるように話す。
- ウ 一応、病院で処置が終わったら事後処理として里山研究所に連絡を行い、保険等の手続きに入る。
- エ 被災者とその家族への事後対応は誠意をもって行う。

里山整備用具

- ・チェーンソー(3台:大1小2)
- ・チルホール(1式) 斧(3丁)
- ・伐採用・薪用クサビ(4個)
- ・枝打ちノコ(6丁) 鉋(6丁) 鎌(6丁)
- ・作業用ヘルメット(フェイスガード付 人数分)
- ・ワッカロープ用ロープ
※2.5mの長さに切り両端を結ぶ
(クレモナもしくはテロン16mm×20m)
- ・チェーンソー用燃料(適宜)他

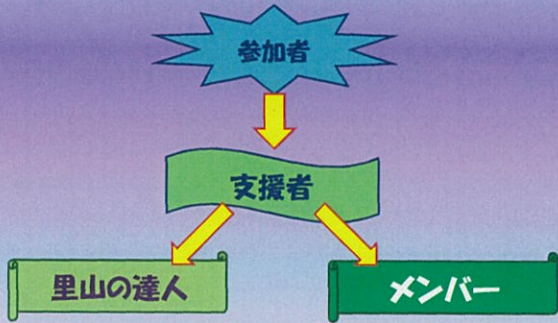
※他のプログラムの備品消耗品については別紙・計画書参照

里山整備計画(費用捻出方法)

- ・セブン・イレブンみどりの基金
- ・社団法人 みどりの基金
- ・林野庁
『森林・山村多面的機能発揮対策交付金』
- ・タカラ ハーモニーファンド
- ・コメリ 緑育成財団
- ・公益信託 大成建設自然・歴史環境基金

期待するメンバー像

スタート当初はわずかなメンバーであるが、プログラムが進む中で参加者が技術を習得する。



里山再生は
“地球清福（征服？）”の
第一歩である！

ご清聴ありがとうございました

はりま里山研究所
里山再生プロジェクト
チーム“山おやじ”
荒川 士郎 大谷 和子
増田 恵一 松永 正博
茂見 節子